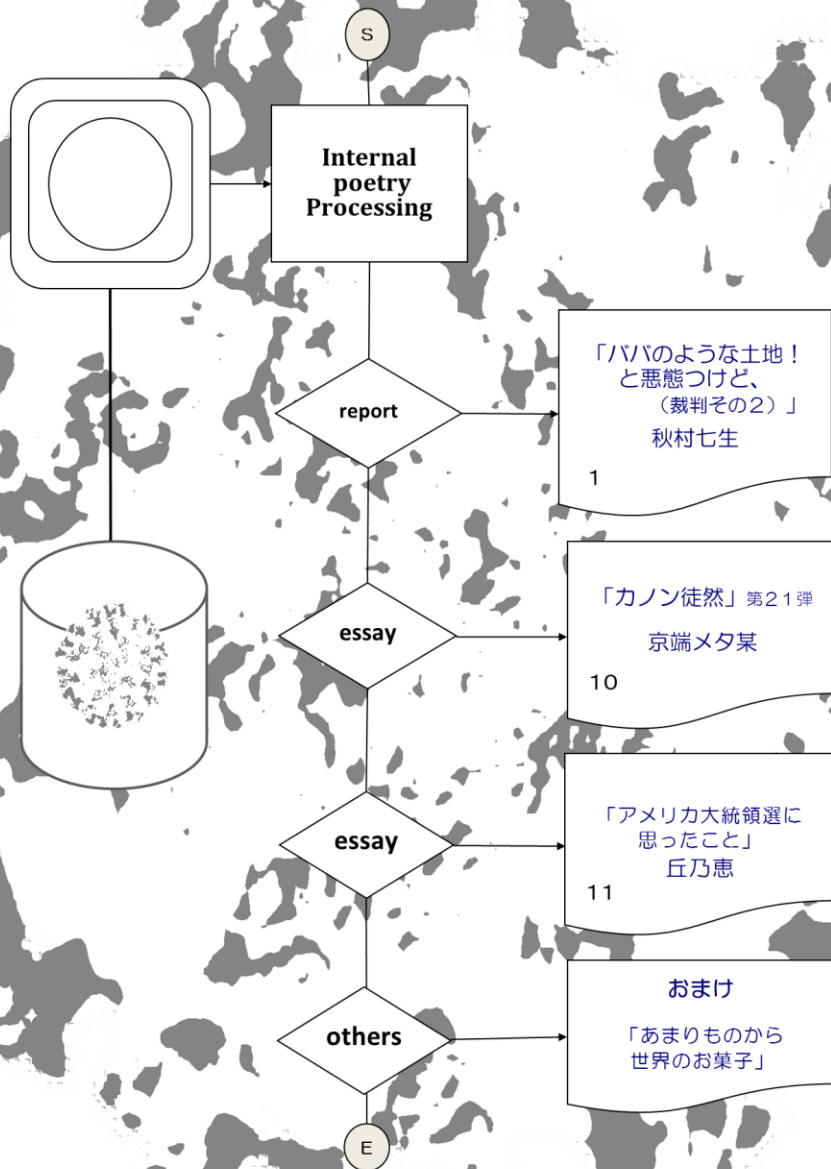


# 未来世界仕様書 Vol.21 Ver.1.0



未来世界仕様書

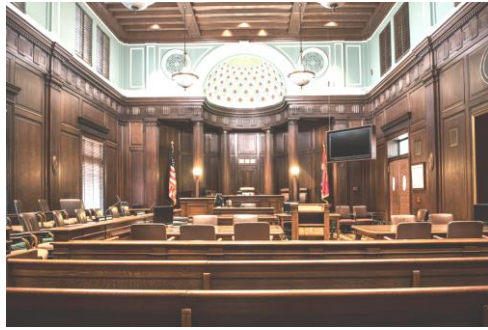
V  
o  
l.  
1.

2  
1

V  
e  
r.  
1.

1.  
0

パパのような土地たち！と悪態つけど、(裁判！2) 秋村七生



裁判！

家も建たないのに評価額が高すぎる！と市に文句を言った。買取査定5万円の土地に2000万円の評価。固定資産税は評価額で決まる。納得できない。

市の第三者委員会でも不服が棄却されたので、次なる手段は裁判となった。昨年夏のこと。弁護士に勧められたのは本人訴訟だ。

固定資産税の通知書にも載っている「不服のあるとき」という手順をやっているのだが、何せ初めてのこと、右も左も分からない。見聞きしたことは記録しておきたい。

さて、評価対象地は2筆である。その単位を画地と呼ぶ。筆者は小さい方の1筆の所有者である。過去に書いた事情から、筆者の土地だけで訴えた。それでも画地評価について争える。

心配したのは費用。すぐに安堵した。本人訴訟ゆえ弁護士代がかからず格段に安い。裁判所へ納める費用が千円。これは訴訟物の価格で決まる。訴訟物の価格は、固定資産評価額ではない。裁判に勝って得する額、つまり、勝って決まるだろう固定資産税額と今の税額差で決まるらしい。計算は裁判所が行った。あとは、切手代数千円、交通費と諸経費だけだ。

とは言え、訴状は自分で書かねばならない。証拠集めも自分で行う。ネットと図書館を活用した。また、さる学会と縁ができたので経験者の方からアドバイスも頂いた。今風にクラウドで大々的な協力者の募集も考えたが、筆者にはこじんまりが合う。

訴状を書きあげ地裁に送った。日本の三審制度の一審目は対象地の在る地方裁判所で行う。受理され担当部署、裁判官、事務官が決まった。事務官は世話人でもある。何かにつけ「素人ですいません」と電話で教えを乞うたが、いつも明るく親切に対応してくれた。途中交代しても事務官はみな親切だ。

審理は年度をまたぎ、裁判長は交代。事務官や裁判官の途中交代も含めて職員は全員入れ変わった。裁判資料は厚く他の案件もあるから引継ぎが大変そうだ。文書は全部読むのだろうか。

被告たる市は代理人が対応した。地裁徒歩圏内に事務所を構える弁護士である。そして期日には、市の若手職員(担当課の)が数名傍聴しに来た。電車代を使つてわざわざ来なくても思ったが、裁判官へアピールなのかもしれない。

法廷に関係者が集まり、裁判行為をすることを「期日」という。ドラマとは異なり、原告や被告は演説しない。前もって提出した文書に対して「そのとおりです」と言うことが口頭陳述となる。他は裁判長の質問に答えるくらいである。実質、文書で対戦。

## 2020年秋 敗訴。

コロナ禍につき判決文は郵送での受取りにした。期日の欠席はだめだが判決は欠席可(と裁判所から言われた)。判決文と一緒に、切手の残りが戻ってきた。使った分を引いて2000円弱。

事務官へ電話。支払いについて聞いた。あの決まり文句『訴訟費用は相手側の負担とする』と判決されたし。負けたらこっちは払わねばならぬ。いつたい、いつ、どう、払うのか。

結論として、払わずに済むようだ。払い時は、決着が着いたとき(一審、控訴、上告のどこか)。ただし相手が請求してくればと言う。勝者は大概請求しないらしい(行政訴訟の場合だけかもしれないが)。「ラッキー！」と内心思ったがよく聞くと時効がない。いつか来るかもしれぬ請求を思うと心が重い。期限はできれば設けてほしい。

ちなみに訴訟費用は、文書作成や交通費の基準料が決まっている

ので、べらぼうな金額になることはないという。被告が、徒歩圏内の弁護士事務所を選んだのは、敗訴する（行政訴訟は原告が負けるものと本に書いてある）納税者たる原告を慮つてのことかと思つたが、役所の経費削減が目的だったと分かる。ま、それはそれで重要なことだ。

して裁判は次の段階、控訴！  
場は高等裁判所に変わる。

控訴は2週間以内に行う。日の数え方は、判決文（特別な書留で来る）を受け取った翌日を起算日にして、14日目必着。14日目  
が休日なら平日まで伸びる。

まず、型通りの控訴状を出した。雛形は裁判所のホームページにアップされており、1時間もあれば、訴状を引用してワープロ打ちができる。が、訴訟費用や切手代や送り先を確認するのに検索や電話が必要となり、日単位の時間がかかった。

控訴状の宛は高裁。原告は控訴人、被告は被控訴人と呼び名が変わる。しかし書類の送り先は、地裁の事件受付だった。まだ高裁の担当部署が決まっていないという理由だ。

控訴の費用は1.5倍の1500円。切手代も少し増えた。

控訴理由はつけない。後からでいいのだ。50日以内必着（控訴状の裁判所への着日の翌日が起算日らしい）なので、ゆつくり考えられる。控訴理由はFAXでも受け付けるとのこと。でも、写りが悪いと裁判官の心象に影響するので郵便が無難である。ちなみにまだデジタルでの受付はないそうだ。

高裁の担当部署が決定され、封書が来た。一月ほどかかるようだ。事件は地裁から高裁に引き継がれた。よって、控訴理由は、高裁へ送付することとなった。

今、ちようど、控訴理由を出し終えたところ。

ところで、その封書に「訴訟進行に関する照会書」が同封されていた。理由書の締日やアンケート（希望する期日日程や進め方など）もあった。

アンケートは、日程の他は、和解の意向とか主張、立証予定、意見とかなのだが、これから理由書を書くのに今聞く意味や主旨がよく分かず、事務官に聞いてみたがやはりピンとこなかった。

一方日程については、高裁は既に被控訴人の希望日を入手しており、電話口で教えてくれたので、日程はその場で決まった。回答書に日を記入しFAXで送った。高裁は杓子定規ではない印象だ。数日後「期日呼び出し状」なるものが来て「行くよ」の回答をFAXを送った。

さて、一番では期日は曜日と開始時刻が毎回同じだった。高裁でも固定かと聞いたところその都度変えられるという。しかし、その心は、期日回数が少ないから、ふつう一回で結審です、だった。え？一回で結審？なら理由書に最大洩らさず言いたいことを書かねば！と、いろいろ書き連ねたが、経験者の方より一回で終わるとは考えにくく1年かかる場合もあると言われ、相手の出方を見つつ、カードを切る方法に変えた。なので、ヘッダーとフッターを除くと、正味2頁（裁判所書式で）の理由書となった。

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

争点を書いてみよう。

わが主張は、「評価額を出す係数に根拠がないじゃないか！正しい評価は不可能。評価を見直せ」である。

◎前置き

最初に税額の決め方を概説したい。

土地の固定資産税額を決めるにはまず対象地の価値、固定資産評価額（以降、評価額）を出す。その計算手順や使う係数をまとめたものを「固定資産評価基準（土地）」（以降、評価基準）である。そこには農地や山林などの評価方法も載っているが、わが土地は宅地なので宅地評価が関係する。その評価方法は、標準地の評価額に係数をかける分かりやすいものだ。係数は、奥行、間口、不整形な

ど数種類ある。大抵が減価である。また、固定資産税では、土地の価値は売買価格とされており、標準地の価格には公示価などを使う。正しい評価額を出すことが正しい税額を出す条件となる。

「評価基準」は全国自治体の固定資産税課にとつてバイブルとなっている。総務大臣により策定・告示される。人によっては金科玉条という。総務省サイトから入手可。そして評価基準の中に「これだ間に合わなければ自治体でよろしく決める」の文言がある。したがって自治体は係数に手を加えることも多いが、もちろんバイブルを逸脱しない範囲である。

さて、建築基準法を満たさない宅地の係数も自治体が決めた係数である。しかし、他の係数とは異なる。それらが評価基準の係数表の微調整である一方、建築制限は評価基準に基本となる係数がない理由を聞くと「建築基準は条例で変わるから国で統一基準は作れない」と言うが、国主導を望む自治体の声(平成11年頃)もあつた。しかし総務省(昔は自治省)はそれらを無視し、全国的な調査をすることもなく、個々の自治体(千数百ある)に丸投げしたのである。これについては後にまた触れたい。

前置きの最後に、重要なルールをふたつ記す。ひとつは、評価基準で評価する価値は「適正な時価」ということ。その土地を使って収益がどのくらいあがるか等ではない。適正な時価とは、客観的交換価値、不特定多数の第三者間取引で決まる価格のことである。そして、ふたつ目は、「時価を超える評価額は違法」(時価を超える部分)ということである。このふたつは平成15年に最高裁判例で示された。

◎係数は売買実例なく決められた

さて、被告は「あなたの土地は再建築困難(お役所は、建築不可とは言わない。つまり困難でも建築可という立場なのだ。筆者の立場は今の状態を考えるから建築不可)。家がすぐ建つ土地よりは安い評価額になりますよ」と言う。それは結構なのだが、民間査定で

5万(買取り査定。大手売買査定では値がつかないと言われた。鑑定では350万)の土地が2000万の評価額。その格差、誤差ですまないでしょ。どう説明するの!

筆者調べにより、被告自治体は、再建築不可の土地の係数を決めるに当たり、売買の実例をひとつも調べていないことが判明した。それで、どうして客観的交換価値(時価)が出せるのか。

筆者は「そんな根拠ない係数使えない、正しい評価なんてできないでしょ!実例調べてよ」と言ったのだが、被告は「難しすぎて調べらんない!」と返してきた。

そして、裁判官はこう言った。

「そうだよ、いいんだよ、難しかったら調べなくても。そんなことに手間かけてたら税金とれなくなっちゃうもんね。だいたい総務大臣の作った基準は正しに決まってるし、問題になってる係数だって、評価基準の決めた下限と最大の間だから間違ってるないし、使えないとまでは言えませんが。原告さん」ときたわけだ。

裁判所はやはり行政の味方であった。

調べなくていいって? 売買実例が基本とちゃうの? 行政が持っている固定資産評価の参考書にだってそう書いてあるでしょ。

そもそも、全国の固定資産税課のバイブル「固定資産評価基準」には裏付けがあるのか?

情報公開制度で根拠の開示を請求してみた。

結果、裏付けは万全でないと分かった。というより根拠はほとんど出てこない。

全国で税金取るための基準がこれでいいの!?

◎情報公開で分かった評価基準の根拠の実態

聞いてほしい。

評価基準は、昭和の時代にできたが、宅地についていえば、平成

8年に全面改正があった。その根拠は、期限切れで廃棄されたという。まだ使っている評価基準なのに！いいののか！

その後、平成の時代に3つの部分改正があった。

そのひとつが、家の建たない土地とも関係する「無道路地補正」の改正（平成11年）である。しかし、その改正でなぜその係数値になったのか根拠がない。改正前後の数値の添付された議事録のみだ。被告自治体からも、家のたない土地の係数の根拠（9頁、平成12年）が出たが、「無道路地補正を基準に策定しました」と要約できる。うなるしかない。

残り2つの改正は不整形（平成11年）と間口（平成20年）の係数だが、妥当かどうかは別として、分厚い根拠書類が総務省から出た。新しい方が厚いので、情報処理技術の向上と世の中の情勢が関係しているのかもしれない。

結論として、現在使用している「固定資産評価基準」の殆どについて正しいことの証明が不可能になっていたのである。

#### ◎建築不可地の係数策定は自治体に丸投げ

家の建たない土地の評価係数は自治体任せと既に言及したが、これには大いに疑いが湧く。建築基準が自治体毎に違うのは事実だが、共通点も多く、国レベルで全国調査して方針を示した方がだんぜん効率がいいに決まっている。そして、家が建つか建たないかは、宅地価値に最も影響を与える要因である。自治体レベルでは荷が重い。情報量も少なくなる。実際、自治体は国主導を望んでいた。

なぜ総務省がリーダーシップを取らなかったのか。

ずばり、建築基準法は、他省庁（国土交通省）マターだからではないのか？詳しいことは不明だが、官庁は縦割、縄張り意識が強いというではないか。総務省は、この件に、関わりたくなかったのではないだろうか。

だから、評価基準に入れるのは無道路地補正（これも建築不可能な土地だがそこには触れていない）のみ。それも根拠を明確にしな

いで入れよう、建築できない土地の係数については、責任を持たないよう、どうとでも説明できるように末端に投げておこう、という匂いを感じるのである。れっきとした理由があることを願う。

#### ◎口頭の根拠と文書処理への疑問

無道路地補正の根拠が総務省にないと前述した。実は、総務省は口頭で「資産評価システム研究センター」の某資料を根拠として紹介したことは追記しておこう。

右記のセンターは、全国自治体クラブとでもいうような団体である。団体の主旨はホームページに書かれているが、誰の発案でどう発足したのかは分からなかった。総務省に関係（調査の発注先とか関連団体とか）を聞くと「関係無い」との回答であった。（ただ以前は理事に入っていたこともあると言っている）関係がないなら、この資料を根拠とすることはできないと思ひ「総務省としての根拠はないのか」と聞いたところ議事録が出てきた。

しかし、議事録（審議会承認議事録）には改定箇所新・旧の対比があるだけだった。改正後の値の根拠資料は添付されておらず、資料の名称すら書かれていない。（同時に行われた他の改正も根拠資料がどれとは書いていないから、書かないのがお役所流なのだろう）

再度、総務省に連絡をとり、ダメ押しで「件の団体の資料が、評価基準改正の根拠であるという一筆は出るのか」と聞くと「そう書いてある文書は省内にないので出ない」という回答だった。

文書が命の官僚世界。一般人には理解不能の、もっともらしくも怪しい文書処理に感じられた。筆者がものを知らないだけの可能性もあるが、やっぱりおかしくないか？口承だけで教える根拠って何もの？議事録は単純に根拠書き忘れただけ？それはあり得ないでしょ。明確化を避け責任の所在をあいまいにする処理の仕方と感じられてしょうがない。

ただ、一方で、情報公開の担当者は皆親切だった。なぜに公務の

方々はみな親切なだろう。出された資料を裁判で文句言う為に使うのが忍びないほどだ。いやいや、お人よしと言われるだろう。ともかく民主主義のよい形に皆で乗っているのだと思うことにしよう。

◎根拠が本庁にない理由は？

話をもどすが、前述した3つの改正のうちの不整形地（長方形でない四角や三角、多角、旗竿形など）に関する改正は、無道路地の改正と同年に行われた。同じ議事録に記載がある。不整形地については、厚い根拠が総務省から出たと前述した。だが無道路地に関しては総務省に根拠が無い。自信の持てる根拠ではないからか？

前述の団体の資料は、不動産鑑定10件から結論を出している。対象物件や鑑定の詳細については記述がない。数も少なければ実例でもなく物件実態も不明。根拠とするにはこころもとないということなのだろうか。

不動産鑑定では、無道路地の価格を決める式に、接道の実現度というものが入る。接道の実現とは、道路と無道路地間の土地を買って接道に必要な工事を行うことだ。実現度を正確に知るには、四周の状況調査（物理的、人的、政策など）が必要で値決定の難しさは推測される。でも逆に調査せず鑑定人が主観で実現度を決めることも可能なのだ。いやいや平均値ですと言うなら、それを出す実例があることになり矛盾する。

真相を知ることができないが、ただこう言うことはできる。つまり、そのように評価基準は改正されたということだ。

この改正は20年ほど前に行われ、当時でも実例に基づいた情報処理はできたろう。なぜやらなかったのか？また、時が下るにつれ更に高度な情報処理は可能になった。土地をとりまく環境も変わってきているが、見直しは行われぬ。そもそも、定期的に係数値を見直すという発想が行政にないようだ。

疑問満載である。

◎評価基準に対する裁判所の判断

こういう評価基準だが、最高裁は判例で「評価基準を使った評価結果は正しいと推認できる」と言っている。なぜ、このように根拠をもたない評価基準を、根拠の観点から吟味にせずに、正しいと判断できるのだろう。どうも、国民（法律）の委任により国が作ったから、というのがその心のようだ。委任したとしても根拠は必要ではないか。その説明も。それは社会の常識と思うのだが。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

◎評価基準は科学ではなく政治・宗教かもしれない

裁判では相手の研究は欠かせない。するとだんだん分かってくるものがある。

評価基準はよくできている。スキなく作ってある。日本の頭脳が作るところいうものができると、妙に感心してしまう。司法もそのあり方を支援するから盤石である。

どこがよくできているって、何と言っても反証不可能なこと。「不服」は受け付けるが、反証はできないようにしてある。納税通知に必ずついているのが不服受付の制度説明。しかし、今は単なるガス抜きと思えない。皮肉ではなく、たぶん、そうでないと徴税稼業は納税者の圧に耐えないことだろう。そして、司法は反証不可能性には触れないことになっている。

従って、固定資産評価は科学ではない、と筆者は思った。

◎反証不可能な評価基準

説明してみよう。

時価を超える評価額は違法。これは大原則。

でも納税者にとって、評価額が、時価を超えるかどうかどうかなんてわからない。じゃあ調べてみましょうと、自分の土地について査定や鑑定（国家資格要）を取っても、自治体も裁判所も、個別の鑑定は受け付けない。

理由は「個別鑑定に逐一反証していたら役所の徴税業務が進まない」というもの。評価基準という「全国同一物差しで公平な評価をすることに意義がある」から、そんな誤差や多寡の問題にいちいちかまっていられないよ、というのである。（注…しかし、前述したように物差しの精度や正しさは証明されていない）

また、標準地の評価額は、時価の7割（俗に言う7割評価）である。つまり3割引き。3割も引いてるんだから、係数に多少の誤差があっても時価超えなんてしませんよ、ということになる。（ただし証明はないし納税者にも証明できない）

ちなみに判例でも納税者の訴えに対し、評価額が時価を超えることを証明をせよとは言わない。対象地が評価基準で評価できない特別な事情を証明しろと言うのだ。評価基準が正しい前提だからである。

しかし網羅的構造をもつ評価基準に対し、「特別な事情」は原理的にありえない。何を言おうと既存の減価要因に押し込まれるのである、判例は無いものを証明しろ（できるもんならやってみろ）と言っているにすぎない。と筆者は考える。

他に、手段があるとすると、広域データを使うことか。客観性のある広域データを処理して、評価基準の係数値が妥当か妥当でないか白黒つけることは可能と考える。しかし、納税者には無理だ。証拠となる客観データは公にあり、一部公開されているものの、証拠として情報処理するにはまったく不足である。つまり、係数値が妥当であることを証明できるのは行政だけなのだ。そして行政はやらないのである。難しかったら調査なんてやんなくていいよ、となっているのである。

結果、納税者に許される指摘は、自治体のミスだけとなる。例えば、係数Aを使うべきところBを使っているじゃありませんか？あ、

ほんとだ、失礼。失礼。の類である。これは裁判まで行かなくても解決できる。

行政も司法も根拠は示せないのに評価基準は絶対正しいとする。自治体が適用を間違え以外の間違い（通常の手順で時価を超えること）は起り得ない、としている。何をどう訴えようとも「お疲れ様でした。御帰りはあちら」という順路に戻されるようになっていくのだ。

係数表や計算手順が公開されている為、一見オープンな評価方法に見えるが、係数の妥当性はブラックボックスである。

しかし、5万円が2000万円では、基準になにか落ち度があると思えない。評価基準の正しさを証明してもらわねば。

司法・行政が絶対視する評価基準への疑問をまとめてみよう。

① 建築不可地では実勢価格から係数値の妥当性が疑える。② 係数の妥当性を証明する根拠は存在しない。③ 評価基準は改定から十年単位での時間がたっているが、定期的にも不定期にも係数値の検証は行われていない。④ 納税者の声をフィードバックする仕組みがない。

◎ 誰も知らない分からない実態

このように評価基準というものの、税制理念どおりに売買価格に基づいて合法範囲の評価額を出しているかどうか分からない。評価に不公平、不公正、違法性があっても分からないのである。そして、納税者にも分からないが、基準を決めた国や自治体にも裁判所にも分かっていないのである。すべて分かっていないけど、評価基準に従えば正しく合法としているだけなのだ。（あるいは、分かっているも納税者への公開情報に含めない？そもそも国民と行政では、客観的取引価格という文言でも示す内容が違う？・・・）

これはある意味最強の正しさかもしれない。信じているからだ。宗教のようなものだ。証明されていなくても正しいと信じるのだから。



筆者にはこれまでの調査や裁判準備でこのように思えた。本当にそうなら、ちよつと怖い。これが、争点を決めた理由だ。

### ◎統計処理の必要性

もし、固定資産評価が科学なら、全国データを処理して係数値を決めるだろうし、事実を見ながら外れ値の意味や処理を考えるだろう。実際には土地の値段はまちまちであつて、税制上の違法（評価が時価より高い）の発生数を0に抑える係数など実はかなり難しく、考え方の工夫も要ると思われる。努力しても全画地にとって平等を担保する係数を得ることが難しいかもしれない。しかし、まず調べてみなければ、何がどうなっているのか分からない。目をつぶっている状態には感心しない。限界を陽にすること、納税者に理解を求めることは、民主主義を標榜する国なら、重要なことではないのだろうか？

行政の世界では、ブラックボックスと理屈のセットにより違法性を見せない（合法と定義する）類の合法性が常態なのかもしれないが、そんな仕組みを取っているかと思うと、腹が立つ。煙に巻くのと変わりない。

統計を持ち込めば、より事実に近い係数を詰めていくことができる。また、土地の値段を決めている要因と価格の関係を客観的に把握すれば、政策にも役立つに違いない。これからの時代、納税者への公開を前提とした正直な方法が望ましいと納税者としての筆者は思う。

### ◎評価基準に内在する不公平の可能性

評価基準は評価人による差の出ない全国一律基準だから公平を担保するという。でも評価基準内には評価の公平性を担保していない。と筆者は考える。

### ○7割評価とは標準地だけ

例えば、俗に言う7割評価は、標準地だけである。標準地は7割評価と評価基準に明記されている。しかし係数のかかる一般地には言及がない。常識的に考えれば、どんな土地も評価結果は7割。そうなるような係数を決めるはずである。でなければ誤差への対応にならないからだ。7割目標にしなれば、画地評価の公平性を崩すことになる。7割評価を指さない係数などは違法と言つていいだろう。これは筆者の考えであるだけでなく、相談に行った弁護士先生も毅然とそうおっしゃつた。

だが、行政や司法はそうには考えてないようである。

そう思う理由のひとつは、評価結果がどうあるべきか、係数はどうあるべきなのかどこにも書かれていないからだ。標準地の7割評価のみ明確に評価基準に記述されている。その他の土地について何も記述がないことは、どんな評価結果になつてもいいのだと暗に言っているのだ。（評価基準のこの部分を見たときに感じる違和感はそのうちと考える）

### ○判例は時価を超えた部分を違法とした

その後、ある最高裁判決で評価額のうち時価を超えたところが違法となつた。（これが前述したルールの根拠である）つまり、評価基準を使った評価結果は7割でなくてもよい。時価さえ超えなければよいということになる。

3割は誤差とみなしたわけだ。しかし3割とは巾があり過ぎるのではないか。例えば7割と9・9割ではだいぶ違うのだが。

注釈しておく、この判例は、標準地価格が問題となつた。標準地（公が時価を出す）価格を問題にしたからこそ、時価が明確となり、国が裁判に負け、時価を超える部分が違法とされた。

筆者は、なぜ7割を超えるところを違法としないのか、しかも標準地！だ。行政にやさしい判断と思え納得できないが、とりあえず納税者が勝つた稀な裁判である。

原因は地価の下落。標準地価格を出した日から、実際に評価を行う基準日までの間に、3割以上の地価が下落したのだ。パブルの後で一時このようなひどい下落が発生したのである。そこを訴え、評価基準日の時価を超えた部分が違法となった。役所にとつてはきつと想定外、標準地がかんだ特殊ケースだが、司法が「時価超えは違法」と練りきしたことは大きい。

#### ○実態の不可知

ところが、一般の土地は時価を提出することができない(注)。だから、自分の土地の評価が時価を超えているかどうかだけでなく、他の形状の土地に対する評価との差異、つまり係数値の公平さなどの程度なのかも知りようがないのだ。どんな評価結果も、「評価人差のない公平な評価」としてひとくくりに正しいとなる。

#### ○筆者画地のシミュレーションは不公平を示す

しかし、筆者画地の資料及びシミュレーション(裁判にも提出)からは、変形度合と不公平の関係は顕著であった。形状が標準地から外れるほど割引率は減って時価に近づく。建築基準を満たすぎりぎりの接道幅では評価額は時価(不動産会社のつける値で代替)を超えた。接道幅が建築不可になれば、評価額は時価を極端に超える。一例でしかないけれども、筆者には相関が見えた。誤差ではなく、係数の決め方の問題と思われた。

筆者画地の例に過ぎないが、世の中一般で、不公平が発生している可能性は大いにありと考える。

更には言えは不公平は意図的の可能性もあるかもしれない。この場合、行政は実はある程度の統計処理を行って傾向を掴んだ上で、行政の意図の入った係数決めをしたことになる。納税者から文句を言われないように根拠は見せないということだ。

個別鑑定を認めない裁判所では、このような筆者の証拠類は無視するわけだが、裁判記録としては残るので何かの参考に参考になれば幸いだ。

#### ○標準地の勧め

以上から、こう言えるかもしれない。「買うなら、標準地である。公的に価格が明確であり、税制面では明確に3割引きであり、かつ、何かの時にもっとも売りやすい土地である。変形地である旗竿地は、標準地と比べ市場価格は安い、税金面で割高評価となり割高の税を払う可能性がある。税法に反する可能性(時価超え)さえあるが白黒つけることはできない(注)。ただ市場価値はあるので利用方法や考え方によつて選択できる。しかし、建築基準にとどかない旗竿地の所有ともなれば、割高税の可能性は格段に上がり、しかも売却が難しいため、未来永劫、土地の価値にまったくもって見合わない高額の税金を払い続けることになる。住んでいるならまだしも、遠地の相続などの場合、精神衛生に悪影響を及ぼすだろう」

(注) 時価が分からないのは、裁判所が個別鑑定を認めないうえ、行政が実例調査をしない(あるいは公開しない)からである。

#### ◇行政における宅地評価の思想

行政はマニュアル的な説明を繰り返す。税法の何条が適用され、標準地の価格はこうで、使う係数はこれとこれで、つまり評価基準どおりです、というものだ。(司法も判決文に書く)

もっと気のきいた説明はできないのかと一般人は思うが、個人の考えになつてしまふからできないのだろう。それでもこの繰り返しかつても伝わってくるものがある。制度の背後には左記のような思想があるのではないかと筆者は思うようになった。

「標準地の価格が宅地の本来の価値を現す。なぜなら変形地や建築不可地は一時的な形であり、筆界を変更することにより標準形にできるからである。

よつて、これらの土地について、売買実例から正常価格を抽出するときには注意を要する。一般の売買は、真の価値を無視して行わ

れることがあるからだ。例えば、建築制限のある土地では、建築不可として売買価格が設定される場合が多々あるが、建築不可は一時的な現象であり、実際には所有者の労や運により、建築可能にすることができる。それにもかかわらず、一般的な取引では、現在の状況だけをみて破格の値となることが多々ある。これは不正な減価と言えよう。

つまり、宅地域にあれば、本性は宅地であり、建築できる土地として評価するのが正しい。その上で、再建築不可の状態は一時的な制限であるから実現困難性として一定の減価することが適切である。また変形地についても同等の考え方が取れる。

従って、建築困難地や変形地の評価額は、売買実例における一般的な価値意識、取引習慣や消費者感情とみ合う必要はない。それよりも土地の真の価値を損なわないよう係数を設定すべきである。

仮に一般的な価値に合わせるなら相当な減価となるため、一部の土地には評価額をつけることができなくなり、課税対象を外れる。税の減収になるだけでなく、税金逃れに悪用される恐れもある。

結論として、標準地にのみ客観的な価格(時価)を当てればよく、その他の土地の補正係数は土地の真の価値を損なうことのない数値を、一般的な合理性をたもつよう設定すべきである。つまり係数には適切な下限値が必要となる。変形度合が大きい土地や建築制限のある土地では、一般的な取引における価値と比較して、評価結果が割高感を与えることが想定されるが、土地の本性・真の価値からは妥当な数値であるから、係数体系に説得力(一般的な合理性)を含ませることが肝要である。

標準地以外の売買実例については、納税者の納得しやすい係数値の範囲を見極めるための参考とできよう」

単なる筆者の妄想だが、もしこの類の思想(実社会の商取引における価値感を不正常とし、行政の考える価値観を正常とするという考え方)が土台となっているなら、言行不一致の法律違反である。仮に、こういう思想で行きたいなら、思想を陽にしてほしい。そして思想の是非を国民に聞いて欲しいと思った次第である。

〜パッヘルベルのカノン礼賛エッセイ〜  
カノン徒然 第二十一弾〜

京端メタ某

楽籠り生活。バイオリンとピアノでカノン三昧。初心者向けカノンハ長調は弾いて5年目。後藤丹氏編曲の二長調も始めた。二長調はいいなあ。でも難しいから曲の最初と最後だけ。8音は海に始まり、和音から単音になる左手は魚の陸上への進出を思わせる(10小節目)。物語が始まったって感じ。最後はシンフォニーで永遠に突入。大人から始めたバイオリンは気長にやっています。

コロナショックで、アイデアが浮かばないため、今回は、パッヘルベルのカノン！と50回書いておしまい。

パッヘルベルのカノン！ 1  
 パッヘルベルのカノン！ 2  
 パッヘルベルのカノン！ 3  
 パッヘルベルのカノン！ 4  
 パッヘルベルのカノン！ 5  
 パッヘルベルのカノン！ 6  
 パッヘルベルのカノン！ 7  
 パッヘルベルのカノン！ 8  
 パッヘルベルのカノン！ 9  
 パッヘルベルのカノン！ 0  
 パッヘルベルのカノン！ 1  
 パッヘルベルのカノン！ 2  
 パッヘルベルのカノン！ 3  
 パッヘルベルのカノン！ 4  
 パッヘルベルのカノン！ 5  
 パッヘルベルのカノン！ 6  
 パッヘルベルのカノン！ 7  
 パッヘルベルのカノン！ 8  
 パッヘルベルのカノン！ 9  
 パッヘルベルのカノン！ 0  
 パッヘルベルのカノン！ 2

パッヘルベルのカノン！ 1  
 パッヘルベルのカノン！ 2  
 パッヘルベルのカノン！ 3  
 パッヘルベルのカノン！ 4  
 パッヘルベルのカノン！ 5  
 パッヘルベルのカノン！ 6  
 パッヘルベルのカノン！ 7  
 パッヘルベルのカノン！ 8  
 パッヘルベルのカノン！ 9  
 パッヘルベルのカノン！ 0  
 パッヘルベルのカノン！ 4  
 パッヘルベルのカノン！ 8  
 パッヘルベルのカノン！ 7  
 パッヘルベルのカノン！ 6  
 パッヘルベルのカノン！ 5  
 パッヘルベルのカノン！ 4  
 パッヘルベルのカノン！ 3  
 パッヘルベルのカノン！ 2  
 パッヘルベルのカノン！ 1  
 パッヘルベルのカノン！ 0  
 パッヘルベルのカノン！ 3  
 パッヘルベルのカノン！ 9  
 パッヘルベルのカノン！ 8  
 パッヘルベルのカノン！ 7  
 パッヘルベルのカノン！ 6  
 パッヘルベルのカノン！ 5  
 パッヘルベルのカノン！ 4  
 パッヘルベルのカノン！ 3  
 パッヘルベルのカノン！ 2  
 パッヘルベルのカノン！ 1  
 パッヘルベルのカノン！ 0  
 パッヘルベルのカノン！ 5

新参のビルスモパッヘルベルのカノンに遊び、毒気をなくして  
 くれるといいなあ。

アメリカ大統領選に思ったこと 丘乃恵

アメリカ大統領選は、世界の関心を集めました。悪口を言い合うお下品な選挙活動のせいで、権威主義の国は、そらみたことか、民主主義もお里が知れると言ったとか言わないとか。

政治に関心のない丘乃も、こんな大統領選でいいのだろうかと思っただけです。世界には、ガツカリした民主主義ファンやファン国は多かったです。世界には、ガツカリした民主主義ファンやファン国は多かったです。世界には、ガツカリした民主主義ファンやファン国は多かったです。世界には、ガツカリした民主主義ファンやファン国は多かったです。

この雑誌は、空想科学、いや妄想科学、妄想社会科学中心です。その立場からポツポツ考えてみたいと思います。

★これは、民主主義の衰退？それともアメリカの衰退？

アメリカという国、勢いのピークは過ぎた感があります。国にも成長・安定・衰退があるのは不思議ですが、歴史を眺めれば、宿命とも思えます。もちろん、第2、第3ピークがないとは言いませんが、上手く波に乗らないと永久とも思える期間を沈んで過ごすことになるでしょう。下手すれば消滅すること。



時間が経つと勢いが失われ腐敗に傾いてくる。それって生ものだけではないのが興味深い。もしや宇宙定数のせい？

レーガン大統領が累進課税をやめた頃から、貧富の差が拡大し、人種・民族間問題は後回し、教育格差は広がり、分断へと進んで行く。正当化の為に作れどもウソも平気とバレもし：ソ連崩壊による一強化が災いしたか、お山の大将化して品格も指導力も失っていった感じですね。

個人的には間違いはあっても修正し正義を目指す国と感じていたのですが、今は昔、もはや、内容のないコマーシャル大国に見えてきました。そんな裏腹は、結局世界にもバレバレ、ウソ御免の海洋進出OKと新興勢力は思ったかもしれませんが、今回の選挙はアメリカの衰退を示すひと

つの現象に思えます。

★民主主義の衰退？

アメリカの現状を、権威主義の国は、民主主義の衰退と言ったとかいらないとか。

国に栄枯盛衰があるなら、主義にもあるかもしれません。しかしアメリカの醜態は、民主主義の問題より、自由主義、資本主義の問題に思えます。自由の名のもとに、持てる者が、制度を利用（乱用・改編）して私腹を肥やした結果というイメージです。

制度乱用者を排出する民主主義とも言えますが、社会主義でも王制でも乱用者は出てくるものです。主義や体制自体ではなく、運用する側、つまり人類の中庸持続性の問題と思われれます。

では主義というものの衰退しなのか？主義は国や人と一体化していません。運用する側の衰退で主義が機能しなくなるのかもしれない。主義自体にも衰退や死があるかどうかは、丘乃には分かりませんが、ただ、歴史を見ると、廃れたかに見える主義も、変化をした形で再度現れてくる。古代の民主主義や、古代の帝政など、歴史に揉まれバージョンアップして戻ってくるように思われれます。（ファッションと似てますね）

★勢いでどこに？

時の勢いに乗る国では、どんなものにしる、その主義や体制が、その時点で効果的に働いているのでしょうか。

その勢いでどこへ向かうのか？経済大国？軍事大国？覇権国？教育大国？観光立国、福祉国家？行先を誰がどう決めるのか。運用者？国民？我国は？

ほどほどがいい！って感じではないですね。世界で存在感を示したい！というよりポジションを失なったら豊かさや安全を失う危機感いっばいって感じ？ランキング上位という自己顕示欲もあるような。世界は200国！。

★恒常性

人の集まりである国が長生きするには、人体と同じように、恒常性が必要かもしれません。人体の場合、恒常性は、ほぼ全自動（呼吸や栄養吸収や老廃物の撤去、気分の持続などなど）ですが、アナログには限界があるものの、国体は、自律性の模索段階と思われ、意識した努力が必要と思われます。三権分立もその工夫のひとつかもしれません。

国体の恒常性が、自然法則や社会科学、科学技術の共働で、全自動（意識しなくてもバランス取れる）になれば、楽ちんそう。

国体が楽なだけですかね。私は額に汗でしようか。

国の恒常性が人の恒常性並に達成されることは、その細胞である人間同志のいろいろな関係も自動調整されてることですが、個々も楽チン調整がいいなあ。

更に国境を超えて全球が巨大なひとつの身体なら、国同志の関係は体内の臓器関係か？いやいや、国じゃなくて、得意技ある企業組織こそが臓器の位置づけかもしれません。

#### ★国の運用者

傾いた会社をたて直す経営者や歴史上の偉大な為政者が存在することは、組織のトップ、つまり上に立つ個人こそが、組織の要と思えます。トップだけで組織は運用できませんがトップで組織は左右される。100%そう言えるのか数多くの現場を見ていない丘乃には分かりませんが、トップ要説はある程度本当らしく思えます。でも、なぜそこが要なのか丘乃には謎であり、また、他の有効な形態がないのかもたいへん興味のあるところです。

なぜなら、民主主義ならトップは民の代理。本来の運用者は民ということになります。トップ要の形態と民主は両立するものなのかちよつと気になるからです。

#### ★米中対立

さて、今、権威主義体制の中国は力を増しました。国家資本主義は成功、利益を国民に分配したかはともかく有望分野へ賢く投資し

ているようです。人口も多く、経済、軍事、科学面で近いうちに覇権国となる勢いです。

かたやこれまでの強国、民主主義、自由主義の盟主であるアメリカのこの先は心もとない。米ソ時代、社会主義国の計画経済に勝利した資本主義のアメリカですが、米中対立の行末はどうなるでしょう。

#### ★ヨーロッパ

民主主義のヨーロッパも、理想どおりには運んでいない印象です。いわゆる過去の列強とは、産業革命と資本主義の成果で、民主主義が優れているわけではない？つまり、たまたま市民に経済力ができた故の体制？

#### ★民主主義は同族イズム？

経済的に豊かな欧米には移民難民が大勢来ます。労働力として歓迎する国もあるようですが、来訪者は、経済や安全が目的で、主義が第一とは思えません。言葉や宗教や価値観、生活習慣は異質。異質はふつうストレスです。どうつきあつていいか分からないし、パイも奪われる。

力学上、特別なスキルのない移民難民は社会の下層に入る。あらゆる業界や世界の新参者と同じこと。ただ、移民難民は、馴染むまでに世代を経るので、また経ても下層に甘んじることも多いため、荒手に出ることも。社会は不安定化、かえって排斥され悪循環も発生する。

頭の理想は平等でも心理の仕組みは別。異質な新参者が増える中で、民とはどの範囲なのでしょう。同化プログラムはどのように機能しているのでしょうか。ニュースで聞くのは両者の不満です。

#### ★中国への難民

普通に考えると、難民は中国を避けそうです。でも、そうは言っていないと流こむ難民もあるかもしれません。

ある時期からのコロナ対策において、中国のスピードは大したものでした。意思決定も実行も早く民に有無を言わせない。難民問題が起つても有無を言わせない方法で解決するでしょう。追い返すなり大規模難民キャンプを一週間で作り上げるなりして。中国への同化政策を取るかどうかは、その時次第と思われまます。

#### ★権威主義国の弱点は？

20世紀の社会主義・共産主義の一党独裁国は、インセンティブのない計画経済で人々は働くだけ損と感じたそうですが、現在の社会主義国、特に中国は、資本主義を取り入れ国家資本主義に成功しました。成果主義で民のやる気を引き出したのかもしれない。自由主義の欧米型と比べて、メリデメはあるようですが、今は国民の豊かさが上昇中です。

(余談…不思議に思うのは、GDP2位の時代、日本には有人宇宙開発など大掛かりなプロジェクトはなかった(敗戦国はやれない?)けど、中国は、それ以前を含めて、宇宙に軍事情報網を築くとか遥かにスケールの大きな国家プロジェクトをやっています。何故?GDPでは測れない実力(富)がある?日本はGDPという数字は取ったもののその実はカツカツなのではないか?)

独裁体制の弱点は、独善に陥ったときの修正力かもしれません。内に向き外向きどちらの暴走も、止める仕組みは弱そうです。

また、政府による監視や自由の制限、強権発動に対しての国民の不满は長い目では国力を下げるかもしれません。が、逆に愛国の人や利害一致の人は力を発揮するから相殺されるのかもしれません。一党独裁の資本主義という新しい組み合わせ、金持ちで一党独裁という新タイプ(でも企業にはあるタイプ?)か?

そういえば、古代ローマも金持ちの独裁国家。古代ローマは、あるところで拡張を止め異民族とバランスを取ったけど、中国はまだまだ進出中。海は軍事、陸は経済で。広げすぎると蛮族ならずとも移民難民の流入があるか?

#### ★中国が覇権国となった場合

仮に、中国が一強となった場合、世界はどうなるでしょう。全球が中国化されるのか。香港のような形で?世界が自治区になる?本土や漢人をトップとして全世界が階層化され再定義される可能性もある?

それとも、武力衝突の起こりそうなことは避け、各種の独自の主義体制はそれとして、形は対等な関係を保ちつつ、共存共栄の道を取る?

いやいや、飴と鞭的、生かさず殺さず的な老獪さで得意の長期戦略を経て次第に独自勢力の力を奪って、結局は、世界の共産化を目指すのかもしれないなあ。

あるいは、全球を統一したら、突然の方向転換、自由・平等・博愛という人類の夢に向かうのか?

いづれにしても、力を持てば、大航海時代以降、西洋文明が全世界を覆ったように、中華、中国ブランドが、全世界を覆っていくだろう。例えば、ブートンホアが世界の共通語になるとか。京劇劇場が全世界にできるとか。Cポップが席卷とか!。

#### ★中国の素地

社会主義は社会を組織化する考え方といえます。ただ強権を用いた組織化では締め付けておかないとすぐ壊れそうです。

国連も組織ですが、組織というよりは寄り合いにみえます。各国の内部まで組織化が浸透していくような組織ではないイメージです。

さて、世界人口の数名に1人は中国人。しかも、国では漢族が9割以上いて50以上の少数民族をまとめている。陸海含め20の国と接し国境問題も慣れている。何千年も中国という大国(連邦的ではなく見える)を維持する4大文明の中でも特異な国と思えます。

各国にはチャイナタウンがある。住人は、国を信じず血縁と経済を信じての分散化と聞きますが、出身国が覇権国ともなれば、その下に結ばれるかもしれません。

前世紀までに植民地は独立しましたが、今もなんらかの形で昔の宗主国を中心に連合しています。宗主国を配下におけば広範囲の伝

達系ができあがるかもしれません。

量と質を持つ中国に何かフアクターX?を加え、閾値を超えれば、地球規模で恒常性のある柔軟な組織が発生することはないでしょうか。民主主義国にとつては、一種の脅威と感じられる状況ですが、さて「中国の夢」の中身って何なのでしょう？

### ★地球規模の恒常的国体組織

中国をもとに、地球規模の生ける国体を空想。構成員である人類はどうなるのか？民にやさしいのか厳しいのか。

丘乃の想像力では人体のような組織しか思い浮かびません。

人類が、それぞれに細胞や器官となつて、ばかどかい国体を維持するために働くイメージです。中国一強を延長する空想なので、神経系はとりあえず中国共産党としましょう。消化器系や内臓系や血管系、運動系の組織にあたるのは、現在国とか企業とか言われているものが流用されるかもしれません。あまり考えたくはないけど、人体と同じなら役立たないものは始末されていく？緩慢にでも。

そうこうして、できた国体は、地球から資材を取り込み加工して消化して排泄する。人類が統合された暁、敵国は無いので、軍隊は不要。内乱分子を取り締まる免疫細胞だけでよさそうです。

そう、この時点で地球はひとつ。自動制御やAIも活用して、球（生態系）を維持しつつ、資源を、全球的計画で適切な場所から適切な量を取得し、使い終わればリサイクルにまわす。

もしや究極の計画経済にたどりついた？  
富は適切に分配されます。栄養はすべての細胞にいきわたり恒常性を維持しなければなりません。

でも、国体が身体を壊すような暴飲暴食をしたら？つまり、国体が、何を思つてどうふるまうかに細胞の幸福がかかっているということでしょうか。

善なる意思を持つ国体だったら、究極の共産にたどり着いた？  
つて、共産主義つて、全球統一しないと、実は、意味ある達成ができないのかも！！、なんて思えてきました。

中国の夢つて、もしや全球統一！？

さて、細胞の役割が世襲化されては、カースト制度になつてしま

います。でも、上下尊卑じゃなく、東西南北なら違うか？

いやいや、生まれた後でのチャンスは必要でしょう。才能発掘や適材適所での活躍ひいては国体のよい維持のためには。

百万年位続けば、人体の脳や心臓がそうであるように、脳や心臓組織の人類は長寿化するなど、役割に応じた身体的特化につながるかもしれません。もし、脳や心臓が不老不死ともなれば、限りない情報を蓄積できることになりす。膨大すぎて、個別脳だけでは処理も蓄積も無理かも。個々の脳をつなぐとか何か工夫がないと。でも、もし、こうなれば、何か地上に革新的なことは起こるのだろうか。

逆に国体が、老化腐敗衰退したら過去のモンゴル帝国よろしく分裂して割拠状態になるか？歴史は進んだので、巨神兵のように崩れず、何とか身体をとりとめるかもしれない。あるいは遺伝子情報的なものが残りなんらかの形で蘇るかもしれない。

### ★妄想 民主主義組織

いやいや、ちよつと、人体的組織化には抵抗感が・・・。

もとい、想像から我に返りました。丘乃はこの国の住人で、世界のことは体験しておりませんが、治める人と治められる人が同じ（民主主義）ということには安堵を感じています。

治める人と治められる人が別階層だったり、治めている人が治める人をスカウトしていく選抜式より、個人の自由度が高く夢が持てそうです。機会均等（少なくともそう目指す）だし、流動性が高いし、悪い裁を止めやすいし、民のなかに起こる変化も反映されやすいと思えます。

反面、決定実行速度は出ないことや、民の愚かさも合わせて反映されるのは欠点でしょう。そういう意味では、あらゆる個人に最も責任と負担のかかるイズムかもしれません。

自我を大切にする人類として民主主義に期待するのですが、丘乃的に、同質性や機動力以外にも、民主主義で気になることがあります。（以前も書いたことですが）



○分断への対応

意見が割れたらどうふるまうのか。多数決と少数意見の尊重ならまだしも、互角になったら？2つの自治区を作るわけにもいかないし。

マスクつける派とつけない派、隣同志ら困りますねえ。SFなら別の惑星でマスクつけない国を作れますが、実世界ではその場所が個人がどうふるまうかが大切です。発想の転換とか、感情マネジメントとか、客観根拠の重視とか、我慢とか。

ただ、権威には従う気になつても、対等の相手と僅差で意見が食い違うのは結構嫌でしょう。勝手にするからほつといて！と言いたくもなる。だから、マスクつける・つけないを包含する第3の解決策を見つけない。でも難しい。人類に解く力がないだけで、第3の解決策は必ず存在するのか？コロナ禍ならワクチンつてことになりませんか。できるまでの時間が問題ですけれど。

丘乃的解決策としてパーチャル空間を提案します。衣食住全自律・自動化の後、人生を、何層もあるパーチャル空間に移して、多重存在として好きにやるということです。やっぱSFか。そして本質的解決になつてないか？

○組織形

◇ピラミッド

代表制民主主義は組織がピラミッド型です。多くの人には、頂上に立ちたいという欲求があつて、それはエベレストの頂きやコンテストの一等賞のみならず、科学、実業界や政治世界、津々浦々までに及んでいきます。

トップを目指すからこそ技も磨かれ、文化文明は発展すると思うのですが、頂きには、満足や尊敬の他に、権力がついてくることで、モラルに反するような財や権力の取得をも可能となります。

トップの私利私欲や個人的野望は周囲を巻き込み影響が大きい。でも、ともかくやりたい人を止めることはでき



ません。組織のルールにそつて上昇しても、いったん上がれば、歯止めを外して、自らルールが変えることもできます。そして「得するなら」と周囲も、怪物を育ててしまう。

人の寿命は短い。たとえ怪物ではなく傑物といえども寿命が来ます。存命中は、留め具が効いていても、いなくなつた後の組織崩壊はよく聞く話。

確かにピラミッド組織は効率がいい。進化の中でトレーニングをつんだからでしょうか。軍隊も会社も自治会だつて長のいるピラミッド型組織になつていきます。

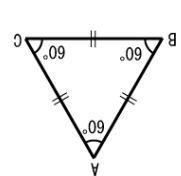
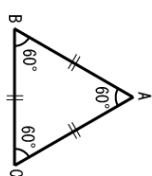
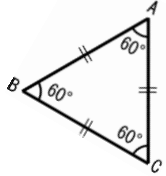
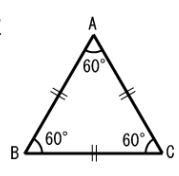
大きな数を、効率よく機能的に動かせません。中国共産党も、会社も、自然な形で国の運営を追求しているのかもしれない。

ただ、下も言われたことだけをやっていて、あまり評価されませんので、ボトムアップ的な方向もあります。組織にみあつたトップダウンとの兼ね合いがあるのでしょうか。

しかしながら、民主主義にピラミッド型つてミスマッチな気がしません？

どこが、通常、階層の下に行くほど「主」から遠ざかると思いませんか？どこにいても心がけ次第という問題ではないでしょうか。直接民主主義なら民主のイメージです。

でも、皆が法案に目を通して賛否を表明しなければならぬとするとしんどいですね。ただでさえ忙しいのに。それで、議員という専門職を設けたのでしょうか。しかし、専門職でも、すべての法案を理解して判断してはいけません。議員には、専門分野があり、また党の上の意向で賛成反対が決まるということですからね。他の組織型ってできないの？



★ 妄想組織

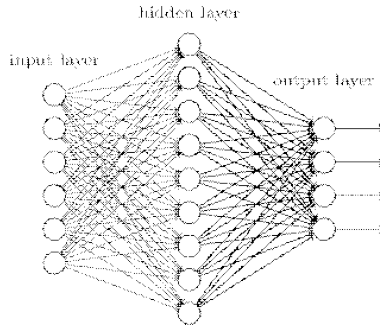
何かヒット感のある組織ってないのでしょいか。

◇回転

まず、転がしてみる。正三角形なら転がして別の頂点をトップにするのは楽かもしれませんが。動的ピラミッド組織。民主なら誰が頂点にきて耐えられねば。もつと動的ならピラミッド内の各ポジションへの民の配置も乱数で決める。でも、上下ができることに変わりないですね。下から上に上がらない情報が多そうです。

◇ネットワーク型

では、ネットワーク型は？  
脳やディープリンングを模倣する組織。ネットワークなら権力の集中はなさそうですが、ディープリンングの模式図を見ると、実は階層になっていきます。



違いといえば、上下ではなく左右。しかも、ひとつのノードは左右の階層の全ノードとつながっている。

図には左右ひとつずつしか階層がないけど、本当はもつとたくさんあるのでしょう。最右ノードは決定段階と思えます。途中の階層やノードで何が起きているのか。分からないと聞きました。複雑過ぎて3次元世界の脳には分からないのかもしれないですね。複雑な学習があるレベルを超えれば、AIの正答率は格段によくなくなるそうです。名人に思いつかない将棋の手もさします。

力を発揮するには、膨大な既存の情報でトレーニングが必要。一万時間の法則を思いだします。だから、人がノードのネットワーク組織もトレーニングを積むと、ものすごい知能を発揮するかもしれない。

実際、人類は人をノードにしたネットワーク知能をある程度形成

しているようにも思えます。

しかし、悲しいかな各ノードには、生物としての寿命があります。尽きれば、最初からやり直し。100年に一度の問題に対応できるレベルに到達できるのか？やはり、突き破れない壁があり、結局人類は少し賢くなったり少し馬鹿になったりという幅に振動するだけなのか。「歴史は繰り返す」となるのか。

Similar Age, Gender, BMI and Same % Body Fat  
Different levels of Internal Fat = Different Disease Risks



El, Thomas and JD, Bell 2008

でも、言語や画像として蓄積している情報、AIという外部処理装置、これらを組み込んで、トレーニング手法も確立すれば、寿命によるリセットなく、右肩上がりに賢くなれないか。新規は新規という共通点があるのだし壁は突き抜けられやしないか。図は2次元だけど高次元ネットワークとして機能することはないだろうか。

全国全球の民ネットワーク。  
おお！これぞ人民の人民による人民のための政治だ！？  
球は自然に治まり。  
これまで歯がたたなかつた問題もかみ砕いて消化できると期待したいなあ。

◇人体

前にも出てきた人体という組織。もう一度見てみましょう。  
人体では、細胞の全能性はごく初期のもの。いったん人体の一員になった暁には役割が固定されてしまいます。脳細胞が赤血球になったり、肝細胞を辞めて、硝子体になったりはできないようです。社会組織も似たところがあります。いったん法律家になってしまえば、クリエーターになるのは難しいかもしれません。自由業の虎次郎にはサラリーマンは無理でしょう。

その類推で、政治がスキルを培わねばならぬ専門職なら、クジ引

きで議員や大臣を決めるのは今のところ無理がありそうです。トレーニングを積んで始めて、民意を汲んで意思決定を行えるのか。ところで人は脳ではないようです。腸内細菌が脳をたぐっている説もあるし、臓器や骨やいたるところが緊密に連絡を取り合っており、人体を運営しているというのが、最近の知見のようです。トップダウンとボトムアップとネットワークが絡んでいる。

人体組織は民主主義と喩わてしようか。人体は、実際には厳しい世界。個々の細胞はそれぞれ機能をよく果たすけど、その役割は世襲であり（例えば、血液は血液用の幹細胞から生まれ、皮膚細胞が血液を生むことはない）、固定され運命はまったく異なります。寿命も恐ろしく異なる。

個々の細胞は何が嬉しくて働くのか？人体を生かすこと？ただそこに生まれたから？この細胞間格差は合意の上なのか。

人体の厳しい世界は、もしかしたら、数億年前に、ある細胞が、組織に参加（強制か自由かはともかく）した結果でしょうか。やりの為か、身の保全の為かは分かりません。

それを潔よしとせず一匹狼に徹したのが単細胞生物ということになります。今、選ぶならどつちがいい？と丘乃が聞かれたら、どつちもどつちですわねえ、と答える他ありません。

社会主義は、社会の組織化を行うそうです。社会第一。自然発生というより人工組織のイメージです。恒常性をもてるでしょうか？人形が人間になる転換ですが、社会の組織化は社会科学の分野かもしれないませんが、とはいえ、今の科学技術から未来を想像してみると無いとは言い難い。

蜂や蟻の非情とも思える組織（昆虫は丘乃の誤解と言うかもしれないが）は、社会主義組織の理想ではないでしょう。

で、人体型民主主義。まあ、人体型で自由や平等や機会均等が確保できると思えないです。寿命格差など、数日と100年でも。カゲロウとゾウの寿命格差。いやいや主観的寿命は同じ？平等の考え方を変える？やりがいをもてばいい？民は国を生かす為に存在する？いやいや逆にしたいですね。

個であり群であり組織であることのバランスとはどういうことなのかと疑問はいろいろつきまosen。

自由主義の民主主義には、自発的なトップダウンやボトムアップやネットワーク型の組織がすでに存在しているようにも思えます。それらが揉まれながらつながって、伝達系と運動系と意思決定系をもつ人体と類似するシステムになるなら、格差や恐怖のない、民にやさしい国体生まれる？民がやさしい意識を持っていて、やさしさがやさしさとながついていくというプロセスが必要なかもしれません。至難。逆に利潤追求型意識がなくなっていけば、そういう性格の国体になっていく。ということですかね。結局、人間の性根の問題となりますか。

#### ★更に妄想

宇宙と人体。バブル宇宙は卵の発生と類似？フラクタル探し。最近、銀河とダークマターの分布形状が、脳のネットワークと似ているというニュースを見ました。

そんなことから妄想すると、人類のかかえる問題って、結局、宇宙の性質ということに。だから解決はないとも思え、いや、遷移とか相転移とか驚きの転換があるかもしれないと希望を見たり、他の宇宙との交配でいけるかと思ったり、ますます妄想へ。

私利私欲や上下意識を後ろに押しやっただとしても、ピラミッド型組織って民主とイマイチ合わないかな。情報が捨てられていく感じとトップダウンが強いところが違う気がする。

3つの組織しか思いつかなかったけど、とりあえずこの中では、次世代民主主義形態として、ネットワーク型に期待をしたいと思えます。民全員で解決法をはじき出すところに一票。

ところでディープリンングって脳のマネですよ。人体の一部結局、人体と離れた組織ってないのか？！（これも宇宙定数のせいかな！）ともかく、お世話になつてはおりますが、人体型組織は遠慮したい気が。一番右のノードであるう意識が、生老病死に悩まされてます！

と落ちをつけたところで終りです

\*なぞなぞ

重さ3キロの物体が、重さ50キロの物体を、テコもフオークリフトも使わず、右に左に上に下にと転がしています。これはどうしたことでしょう。

\*こたえ

3キロの物体はお皿の前でちよこんと待っているネコ。50キロの物体は食事係りの丘乃。好物のチュールを切らしたと分かり、階段を駆け下りスパーに向かつて走っています。(注：体重はサバ)

古典物理の法則と異なる法則で動いたり動かしたり動かされたりする生命の世界。魔法と言わず何と申しませう。

## おまけ

### あまりものから世界のお菓子

お籠り生活のテレビ視聴。選んだのは世界のお菓子系の番組。なぜってキラキラ美味しそう  
で気が晴れるから。一方、生活者の任務は、残りものリメイクや食材の使い切り。ということで  
お菓子作りに挑戦してみました。イギリスのチョコビスケットケーキ、セルビアのクヌーデル、エリ  
ザベス一世のケーキ。お菓子作りは初めてです。あっ、写真撮り忘れた×。

### イギリスのチョコビスケットケーキ

#### <材料>ありあわせ

チョコ(⇒キャドバリーフルーツ& ナッツ150gの半分。非常食として保管していたもの)、  
有塩バター、ドライデーツ3コ、フランスパン半コ(⇒直径 10 センチの冷凍食品。賞味期限  
を過ぎ解凍してもヘンなのでフライパンでスライスをカリカリにしてビスケット代わり)

#### <作り方>:

大きめの茶碗にチョコと同重量のバターを入れて湯煎で  
溶解。刻んだデーツと刻んだパンを投入。混ぜて冷まして冷  
蔵庫で冷却。



#### <試食>茶碗に入ったままスプーンで割って食べました。ちと硬いけどテコを使い••

カリカリのパンにチョコバターが浸み込んでいて、うまい！チョコバターにくるまれたデ  
ーツも、うまい！カリカリ食感とやわらか食感の両方がいい。もしかしてブラックサンダー  
トーストって似てる？

#### <第2弾>

本来はプレーンビスケット(マリービスケットみたいな)を使用するようですが、カリカリ  
なものならいけそうです。クラッカー、おかきやおこし、かりんとうはどうでしょう？試みにリッ  
ツクラッカーで第2弾。生姜も投入。ちょっとしょっぱかったけど結構いけました。でも、生姜  
風味よりは、プレーンの方が好きかな。個人的に。

#### <参考テレビ番組>

「執事が見たイギリス王室」ダイアナ妃のシェフのレシピ。ダークチョコ、ココアやシロップ、  
生姜、ドライいちじくを使っていました。ネットに見つけたエリザベス二世のレシピでは、ドラ  
イフルーツや生姜は入れず生卵を入れるようです。え、生卵？どんな味になるのだろう？

## セルビアのクネーデル(具入りのじゃがいも団子)

### <材料>

じゃがいも(⇒気づいたら箱の中で芽(毒)が出ていた~)

具(余りもの: 雑穀入り玄米ご飯半膳、ホットケーキ小1、カシューナッツ6コ、リンゴ 1/8コ、缶詰の黄桃1かけ、ドライデーツ1コ)

### <手順>

じゃがいもは、しっかり芽をとって皮をむき、茹でて裏ごし。塩少々、片栗粉(じゃがいもでんぷん)を混ぜた。具は、刻んでフライパンで炒め、シナモンを振ってボール状に。

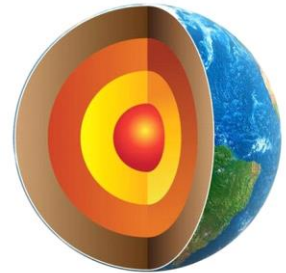
試作。野球ボール大。丸めた具にじゃがいもを5ミリ厚に張付けた。10分茹でてできあがり。少々崩れた> <。。

本番。小麦粉でイモの粘度を強化。風味づけにココナツオイルを少々。じゃがいもを具に貼り付け再挑戦。ぐらぐらしない静かな温度でゆでました。

成功!

食べる前にココナツフレークをまぶしました。残りものとは思えない美味! 甘いご飯への抵抗感は杞憂。お茶のよいおともになりました。

思いついたのですが、具は多層にしてもいいかも。内核、外核、下部マントル、上部マントル、地殻、地球構造みたくしても。



### <参考テレビ番組>

スイーツ紀行列車「オリエント急行ライン お菓子秘話 東欧の甘美」

ベオグラードに専門店あり。様々な具のクネーデルがショーケースに並んでいて、プラムとかピスタチオ味が紹介されていました。

じゃがいもは結構厚く1-1.5センチくらいあったかも。

リポーターはナイフとフォークで食べていました。

## エリザベス一世のケーキ(ドライフルーツのパウンドケーキ、16世紀のおかし)

### <材料>

卵2個(⇒賞味期限がちょっと過ぎてた~)、  
薄力粉、有塩バター、キビ砂糖、ベーキングパウダー  
ドライフルーツ類



### <手順>

普通のパウンドケーキと同じですが、ドライフルーツが入ります。  
卵の2.5倍くらいの重量。家にあったデーツとカシューナッツ、そしてなんというのか知らないのですがカラフルなケーキ材料(購入)も。ドライフルーツはかなり甘いです。なので砂糖は半量にしました。スパイスも入れるそうです。オールスパイスあたりか？オールスパイスは、シナモン、ナツメグ、クローブを合わせたような風味。

16世紀にスペインの無敵艦隊を破ったイングランド。異国のフルーツや香辛料も豊富に手に入ったのでしょう。ケーキは女王自ら焼いたとか。お菓子作りは高貴な女子の嗜みだったのでしょうか。

### <参考テレビ番組>

グレーテルのかまど(ヘンリー8世のメイズ・オブ・オナーの回)で見たサンプル写真に似せるべく、冷蔵庫のジャム(ブルーベリー)を塗りココナツフレークを盛ってみたところ、味も多彩になりました。

### <番外>

エリザベス女王の父ヘンリー8世のお気に入りにはレモンカスタードのパイ。カッター・ジューズ入り。メイズ・オブ・オナーという名前がついています。レシピを参考にいちから作ってみました。畳んでは寝かしのパイ生地づくりに8時間。疲れた~でもとっても美味でした。とはいえ気軽に作れないので次は市販の冷凍パイシートを使いたいと思います。

### <所感>

東欧のお菓子は好きです。ぬくもりのある感じが。  
イギリスのお菓子も美味。料理はおいしくないというけれど...  
国を知って楽し、作って楽し、食べて楽し。世界のお菓子作りは楽しい!

未来世界仕様書は文芸雑誌です  
お気づきの点がありましたら下記までお知らせください

未来世界仕様書 Vol.21 ver.1.0

発行:丘乃恵

2020年11月22日

Mail:mgz.fwspec@gmail.com

Twitter:@OkaNoMegumi